

# 天壤無窮

初春を隈なく照らす影を見て  
月に先づ知る御裳濯の岸

西行

元旦、午前零時、伊勢神宮神楽殿では、一番神楽が奉納される。  
「新玉の年の始の……」祝詞の凜とする声が響く。  
歳旦祭——。清々しい初菫のなか、年の始めを寿ぎ祝う祭。真新しい玉砂利の上、初詣の人々の波がおしよせる。

その喧騒から身をひそめるように「旧慶光院」が五十鈴川沿いにたたずむ。  
慶光院は、伊勢神宮式年遷宮が途絶えた戦国時代、造営の寄付金を募るため、諸国をめぐり、宇治橋架け替えや遷宮復興に尽力した尼僧らに与えられた院号。幕末まで十五代にわたり継承され、1869年の廃寺後、伊勢神宮が譲り受けた。

伊勢りやうくう しやうせんくうの事  
先例にまかせ とりおこなふへき者也  
慶長八年九月九日 家康 (朱印)  
けいくあう院上人

慶長八年（1603年）徳川家康が慶光院上人にあてた有名な遷宮朱印状である。

尼僧の功績に報いて、江戸時代初期に建築された建物は国の重要文化財。「書院造」として貴重な遺構で、客殿としては最高級の格式を備えているという。  
名もなき尼僧の貢献は、遷宮復興の大きな力となったのである。

天壤無窮——  
常若の聖地——  
日差しには 春の兆し



- ◆ 遷宮上人 慶光院記 (浜口良光/著 神社本庁長老慶光院少宮司を祝う会 L184/ハ)
- ◆ 宇治橋ものがたり (伊勢文化舎/編 伊勢文化舎 L174/ウ)
- ◆ 神宮式年遷宮の歴史と祭儀 (中西正幸/著 大明堂 L174/ナ)